

RPA徹底活用 ～虎の巻～

先人たちの知恵に学ぶ

He that would know what shall be, must consider what has been.



1. 例外対応

2

思わぬところに落とし穴

RPAを導入しいよいよ本番稼働し始めました。テストも繰り返し実施してロボットが正常に動くことを確認しています。ところが運用が始まってみるとなぜかロボットが止まってしまう事態に。

ロボットの運用でも「想定外」は付きものです。少しずつ改善していく余裕を持つことも重要です。

「想定外」では済まされない

どんな理由であれ業務が止まってしまうことは問題です。被害を最小限に食い止め、リカバリーすることが必要です。

そのために事前に

- ・エラーの検知ができる仕組み
- ・リカバリープラン

をしっかり準備しておきましょう。

2. RPAだけにこだわらない

3

適材適所

RPAは基本的には人間が操作できることは再現可能です。だからといって全てのRPAで実現すべきかどうかは要検討です。

RPAにはRPAの得意分野*があります。他システムとうまく共存をはかることを目指しましょう。

私をモノに例えると潤滑油です！

RPAは特定の業種、業界、業務に特化したものではありません。また特定のシステムに強みがあるわけでもありません。

他の技術が得意とする分野は任せて、RPAはブリッジ（橋渡し）役に徹することで最適化されることも多いです。

3. 最初から張り切りすぎない

4

小さく生んで大きく育てる

RPAを導入し様々な業務を自動化したいと考えるのは当然です。

でもまずは深呼吸して自分の良く知っている簡単な業務から始めてみましょう。小さな成功体験を積み重ねることで少しずつノウハウがたまっていき、やがて大きな成功が得られるでしょう。

最初は誰でも初心者

RPAに限らず新しいことを始める時は試行錯誤が必要です。諦めずに粘り強く続けることでロボットもきっと答えてくれるでしょう。

でもくじけそうな時もあるでしょう。そんな時は専門家をうまく使ってゴールを目指してみるのも良いですよ。

4. ロボットの管理

5

飼い主の責任

RPAの運用が始まると「野良ロボット」と言われる管理者不在のロボットの問題がよく話題になります。

最近のRPA製品は素晴らしいロボット管理機能を備えたものばかりです。導入する前からしっかりとロボットの管理について検討しておきましょう。

事件は現場で起きている？それとも？

「現場でRPAを導入したがIT部門がロボットの管理に協力的でない」こんな場面が時折見られます。

人間同士の争いでロボットが置き去りにならないように、ロボットの管理・運用について十分に関係者間でコミュニケーションを取るようにしましょう。



将来に対する最上の予見は
過去を顧みることである。

John Sherman

もっと徹底的にRPAを活用したかったら 

7

ロジウム株式会社

[TEL: 03-6822-5010](tel:03-6822-5010)

E-mail: contact@rhodium.co.jp

お気軽にお問い合わせください。

